

中日新聞グループ紹介ガイド

地域を動かす！

中日新聞グループのリソース



幅広い世代で人気を集めるスポーツコンテンツ

中日ドラゴンズ



Dragons

- 運営／株式会社 中日ドラゴンズ
- 所在地／
〒461-0047
名古屋市東区大幸 1-1-51
- 公式 HP／<http://dragons.jp/>
- 営業時間／10:00-18:00
- 本拠地／ナゴヤドーム（名古屋市東区）
※岐阜、豊橋、浜松、金沢、福井などで主催試合を行います。

中日ドラゴンズはナゴヤドームを本拠地とするプロ野球チームで、中日新聞社の子会社である株式会社中日ドラゴンズが運営。1936年のチーム創設以来、リーグ優勝9回、日本一2回の成績を残しています。東海・北陸地方は熱心なドラゴンズファンが多く、主催試合ではナゴヤドーム中心に平均約3万人の観客を集めます。AMラジオ局（東海ラジオ、CBCラジオ）では毎試合中継が放送され、在名テレビ局（東海テレビ、CBCテレビ、テレビ愛知、三重テレビ）でも試合中継やドラゴンズの番組が放送されています。オリジナルユニフォームがもらえる「昇竜シリーズ」や家族向けイベント目白押しの「ファミリーシリーズ」、女性向けサービス盛りだくさんの「ガールズシリーズ」など様々なファンサービスイベントを実施しファン層の拡大に取り組んでいます。

選手のほかに、高い人気を誇る「ドアラ」「シャオロン」「パオロン」の球団マスコットやキレのあるダンスで試合を盛り上げるオフィシャルパフォーマンスチーム「チアドラゴンズ」などコンテンツが豊富です。

シーズン終了後には、東海エリアの各地各所でドラゴンズ選手を招いたサイン会やトークショーなど、楽しいファンとの交流イベントが催され地域に親しまれています。2015年には、野球を通じた地域の子供たちの健全な育成、スポーツの振興を図るためにNPO法人「ドラゴンズベースボールアカデミー」を設立、愛知・岐阜でのスクール事業や子どもを対象にした野球体験イベントを年間通じて実施しています。

ゲームスポンサー

ナゴヤドームと共同でナゴヤドーム開催の主催試合のゲームスポンサーを販売しています。試合にスポンサー名を冠表記するほか、期間限定のドラゴンズ商標の使用、入場チケットへのスポンサー名表記ができます。

また、試合当日には、始球式やスポンサーのマスコットと「ドアラ」ら球団マスコットとのグラウンドでの共演、ナゴヤドームの106ビジョンやコンコースサイネージなど各種PR施策が可能です。地元自治体や企業、ナショナルクライアントまで多く利用されています。露出を拡大するため、スポンサードゲームに合わせた中日新聞や中日スポーツ紙面広告の活用も人気です。

女性や子どもの人気者「ドアラ」

球団マスコットは「ドアラ」「シャオロン」「パオロン」。中でも「ドアラ」は奔放な性格と愛嬌のあるパフォーマンスで女性や子どもからも愛されています。イベント出演や写真集・DVDを発売するなど人気者です。

この「ドアラ」をはじめとした球団マスコット、ロゴなど商標利用のプランをご用意しています。企業の商品やサービスの販促活動・キャンペーンの盛り上げをお手伝いします。



※掲載情報は2019年1月時点のものです

野球に、コンサートに、東海地方屈指の集客空間

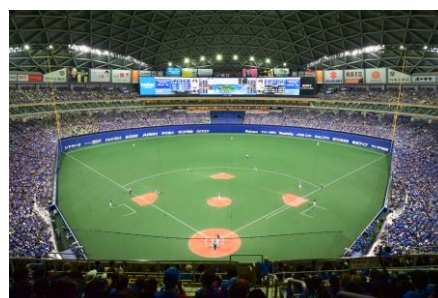
ナゴヤドーム



- 運営／株式会社 ナゴヤドーム
- 所在地／〒461-0047
名古屋市東区大幸南 1-1-1
- 電話／052-719-2121（代表）
- 公式 HP／
<http://www.nagoya-dome.co.jp/>
- 規模／両翼 100m 中堅 122m
フィールド面積 13,200 m²
- 客席数／36,650 席

ナゴヤドームは、中日ドラゴンズが本拠地球場とするドーム型野球場で 2017 年 3 月に 20 周年を迎えました。運営は株式会社ナゴヤドームが行っています。名古屋市内中心部から地下鉄で 20 分程度の郊外に位置し、大型ショッピングセンターが隣接することから、連日、多くの人で賑わっており、年間約 400 万人が来場します。特に中日ドラゴンズ公式戦時の集客は抜群で、シーズン中に約 200 万人が観戦します。野球開催時の収容人数は最大 36,650 人なので、短時間で効率的なプロモーション活動を行うのに便利です。ドームの施設を利用して、来場者に対して様々なアプローチをすることができます。入場ゲートでは、来場者にチラシを配布することが可能です。また、ドーム内では全長 106.56 mある大迫力の大型スコアボード「106 ビジョン」で試合中に巨大広告（静止画）やイニングの間にコマーシャル映像を流すことができます。さらに、2018 年には 2 階コンコースに 66 台のデジタルサイネージが新設されました。

プロ野球の開催以外にも、音響、照明、106 ビジョン設備をフルに活用した展示会、スポーツイベント、コンサートなど様々なイベント会場として使用されています。ほかにも、広大な駐車場を有しており、自動車の試乗会や飲食イベントなどの屋外でのイベントの開催も可能です。



大迫力の 106 ビジョン

バックスクリーン上部に設置された 106 ビジョンは全長 106.56mの大型サイズで大迫力。試合開始前やイニング間の CM 放映、ドラゴンズ攻撃時（1 試合当たり 4 イニング分）の静止画表示などのメニューがあります。



ドラゴンズ攻撃時の静止画表示



イニング間の CM 放映

2 階コンコース デジタルサイネージ

55 インチ 66 台のデジタルサイネージが 2018 年シーズンより新設。試合前、試合後はフルサイズ、試合中は 2/3 サイズ（下の 1/3 に中継映像が流れます）。1 枠 15 秒（6 分 1 ロール）。1 試合から出稿可能です。



試合中のデジタルサイネージ

※掲載情報は 2018 年 10 月現在のものです。

全国屈指の規模を誇る栄・中日文化センターを擁するカルチャースクール

中日文化センター



中日文化センター

- 運営／中日新聞社文化センター局
- 本部所在地／〒460-0008
名古屋市中区栄 4-16-36 (久屋中日ビル 7階～11階)
- 電話番号／052-263-7111
- 公式 HP／
<http://www.chunichi-culture.com/>
- 教室／
栄、鳴海、南大高、一宮、犬山、高蔵寺、
とよはし、豊田、知立、ぎふ、大垣、高
山、四日市、津、びわこ、金沢

中日文化センターは東海・北陸地方に16センターを展開。それぞれが地域と密着しながら時代のニーズに合った講座を数多くそろえ、地域の人々の期待に応えています。

中日文化センターの核となるのが栄中日文化センターです。栄中日文化センターは1966年、名古屋・栄の中日ビルのオープンと同時に開設、中日新聞社が運営する生涯学習の拠点として、約1,000講座、約14,000人の会員を誇る、全国でも最大規模のカルチャースクールです。2018年10月に中日ビルの建て替えに伴い、久屋中日ビルへ移転オープンしました。新しい施設は、音響・映像設備などを備えた一般教室や、安全性に配慮したスタジオルームに加えて、会員の憩いの場としてカルチャーサロン（写真右）が設けられています。会員は40代以上の女性を中心に学習意欲やスキルの上達に熱心で、日常生活をポジティブに過ごしたい活動的な方が多く、女性中心に興味にあったプロモーション活動を行うのに最適です。また、企業とのタイアップセミナーやチラシの設置が可能で、各種講演会、セミナーなどに講師派遣も行っています。



企業タイアップ講座

じっくり商品や企業のことを学んでもらうことのできる企業タイアップ講座の実施が可能です。ソフトバンクとタイアップした「初心者のためのiPhone教室」、補聴器販売会社との「知って安心！聞こえと補聴器」などの事例があります。規模や回数は要相談。



PR チラシ・カタログの設置

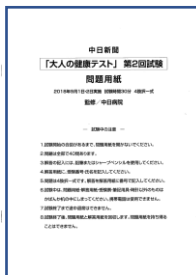
1か月にのべ30,000人が来場する栄中日文化センターをはじめ、各文化センターの受付付近に、チラシやカタログを設置することができます。設置は1か月単位です。活動的で好奇心旺盛な人の多い文化センター会員に対して気軽に企業の商品やサービスをPR活動できます。



※掲載情報は2018年10月現在のものです。



- 所在地／〒460-0002
名古屋市中区丸の内 3-12-3
■TEL /052-961-2491
■公式 HP/
<http://www.chunichi-hp.jp/>
■診察時間／
9:00-11:30、13:00-16:00
■休診日／
第 2・4 土曜日・日祝日、年末年始
■病床数／
93 床（一般 42 床、医療療養 51 床）



中日ハウジングセンター



- 主催／中日新聞社広告局
中日ハウジングセンター事務局
■TEL／052-221-1056
■公式 HP／<http://www.chunichi-hc.ne.jp/>
■営業時間／10:00－17:00
■定休日
【新・神宮東/黒川東/岡崎/豊橋/大垣】
年未年始
【可児/浜北】
年未年始／毎週水曜日（祝日営業）

A large group of people, including children and adults, are sitting on the ground in front of a building, possibly a school or community center, during a community event. Some people are wearing costumes, including a large yellow one.

編集制作／中日新聞広告局

中部アマプロゴルフ選手権大会開催コース

中日カントリークラブ



- 運営／中日本開発株式会社
- 所在地／〒519-0290
三重県鈴鹿市東庄内町字上宮代 1447
- TEL／ 059-371-1188
- 公式 HP／
<http://www.chunichi-cc.com/>
- 規模／
27 ホール、10,372Y、パー108
西コース 9 ホール、3,552Y、パー36
中コース 9 ホール、3,511Y、パー36
東コース 9 ホール、3,309Y、パー36
- コース設計者／富沢誠造、富沢広親

中日カントリークラブは、中日新聞グループの中日本開発株式会社が事業運営するゴルフ場です。1979年、三重県鈴鹿市に開場。鈴鹿連峰を背景にしたゆるやかな丘陵地で、緑濃い自然条件に恵まれています。全コースフラットで、豪快なショットを味わっていただける一方、程よい変化にも富んでおり、中部アマプロゴルフ選手権をはじめ、プロの試合に応えるコースでありながら、一般ゴルファーの方々にも、何度プレーしても飽きないと好評です。アクセスも東名阪自動車道「鈴鹿」ICから4 Kmと名古屋ICからのアクセスが便利。

また、PGAのティーチングプロの資格をもつ前田真吾支配人みずからがゴルフのアドバイスするYouTubeチャンネル「真ちゃんのワンポイントレッスン！」も公開中。中日新聞朝刊〈三重版〉〈岐阜版〉でも記事連載されています。



新聞社との企画ゴルフ大会

中日カントリークラブでは、中日新聞や中日スポーツ主催のゴルフ大会を数多く実施しております。大会によっては、新聞社と共同で企業の協賛を募集しております。ゴルフ大会での賞品提供や商品・サービスのサンプリングなどを通じて参加者へのプロモーション活動を行っていただくことができます。大会に関連してコースに自動車の車両展示をすることもできます。



広いゴルフ練習場

コースボール使用の広大な敷地の練習場も自慢。ドライバーからウェッジまで練習可能で、ドライバーは250yを超える飛距離もOK！

ゴルフクラブの試し打ちイベントなど、ゴルフに関連したプロモーション活動にはもってこいの会場です。また、大きなスケール感を活かしてカルチャースクールのドローン講習会などゴルフ以外の利用実績もあります。



※掲載情報は2018年10月現在のものです。

2000 人を超えるカメラファンの交流サロン

中日写真協会



中日写真協会

Chunichi Photo Association

- 所在地（本部）／
〒460-8511 名古屋市中区三の丸
1-6-1 中日新聞社北館3階
■TEL／ 052-221-0730
■公式 HP／
<http://chunichishasinkyoukai.jp/>
■受付時間／10:00-18:00（土日祝を除く）

中日写真協会は 1948 年に設立された会員組織の写真団体です。初心者からベテランまで中部地方を中心に写真好きな会員が本部、支部で活躍しています。現在の会員数は約 2100 名。写真界有数の歴史を誇る「中日写真展」、「中日写真サロン」等多数のコンテストを開催するほか、毎年 12 名の女性モデル「中日フォトメイツ」を選定。一年間、中部エリア各地で撮影会を催していますので、イベントに華を添えることも可能です。本部正会員は、入会金 300 円、年会費 3,500 円（支部会員は支部ごとに運営費が異なります。また家族割引、生徒・学生割引もあります。）で、会員バッジ、会員証を交付。中日写真協会主催の撮影会、フォトコンテスト、写真教室に参加できます。協会内には、中部地方を中心に地域支部や官公庁、会社内の職域支部が、合わせて約 70 組織され、独自に活動を展開しています。多くの支部が月例会で腕前を競い、地元の祭や伝統行事、観光地などでの撮影会を開いています。また、会報紙「中日写協」（右図）を毎月発行、会員全員へ配布されます。会報紙内にカメラ愛好家へ向けての広告掲載が可能です。



撮影ツアーの企画・実施

観光地の PR やイベントの盛り上げとして撮影ツアーの企画・実施ができます。バスツアーを企画し、会員へ案内して希望者を集めます。観光地の美しい風景を写真に収め、ツアー帰宅後に様々な人へ観光地の魅力を伝えてくれることでしょう。ツアーにあわせて中日フォトメイツの稼働も可能です。



写真コンテストの運営

写真コンテスト・コンクルの運営もお手伝いします。

コンテストの実施や審査結果などを中日新聞紙面の記事や広告を通じて広くPRします。作品募集においては、会員への参加も促しますので質の高い作品を集めることもできます。そのほか、応募作品の整理や作品の審査、表彰式までノウハウを提供します。



※掲載情報は2018年10月現在のものです。

中日新聞 フォトサービス



- 運営／中日新聞社電子メディア局
 ■ 電話／052-203-4500
 ■ 受付時間／10：00～17：00
 ■ 公式 HP／
<https://www.chunichi-photo.co.jp/>

但し、ご提供できる写真は、当社の取材写真に限られるほか、中日ドラゴンズ以外の球団及びプロスポーツ選手、芸能人、事件事故の現場やプライバシー侵害にあたる写真、国内外の通信社が配信した写真はご提供できません。また、提供する写真を出版物やHPへ転載、複写する場合は、別途著作権使用料が必要です。



ドラゴンズ写真

編集制作／中日新聞広告局



«中日新聞社»
 ■担当部署／
 名古屋本社 事業局 出版部
 ■TEL／052-221-1714
 ■公式 HP／
<http://www.chunichi.co.jp/nbook/>

《東京新聞》
 ■担当部署／
 東京本社 事業局 出版・社会事業部
 ■TEL／03-6910-2527
 ■公式 HP／
<http://www.tokyo-np.co.jp/tbook/>

中日新聞社は書籍の出版事業を「中日新聞社」「東京新聞」両出版社名で行っています。名古屋本社事業局出版部では「中日新聞社」として、「月刊ドラゴンズ」、「月刊グラン」など雑誌を定期発行するほか、「東海エリアデータブック」や連載記事を再編集した単行本など、幅広いジャンルの書籍を発行しています。また、2018年9月からは、広告局と共同で、「社史・記念誌の編纂サービス」を開始しました。出版事業のノウハウを活かして構成されたテンプレートに沿って、記事執筆から製本までをパッケージにして提供しています。130年を超える長い歴史を誇る新聞社ならではの豊富な資料や写真で時代を彩り、企業の社史を盛り上げます。周年事業の一環として、次世代への事業継承として、会社内外へのPRツールとして、様々な用途に活用可能です。

一方、東京本社事業局出版・社会事業部では、「東京新聞」として話題の連載記事の書籍化や山岳関係の書籍を出版しています。



社史の原稿イメージ

月刊ドラゴンズ

「月刊ドラゴンズ」
(定価 540 円)は発行
部数 8 万部で、1983
年の創刊以来、迫力あ
る写真や選手の核心
に迫るインタビュー、
試合詳細など熱心な
ドラゴンズファン納
得の充実した内容。電
子版もあります。広告
掲載は広告局スポー
ツ部まで。



月刊グラン

「月刊グラン」は1994年から発行している名古屋グランパスサポーターマガジン。選手の息遣いが聞こえるインタビュー、ゲームリポート、コラムなど満載で毎月12日に発売。Fリーグの名古屋オーシャンズ情報も載っています。広告掲載は広告局スポーツ部まで。



※掲載情報は2018年10月現在のものです。

中部から国内へ海外へ、中日新聞グループの旅行会社

中日ツアーズ



中日ツアーズ

- 運営／中日企業株式会社
- 所在地／〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸1-5-2
中日新聞社北館1階
- TEL／(052) 231-0800
- 公式HP／
<http://www.chunichi-tour.co.jp/>

一般登録：第636号
社団法人日本旅行業協会(JATA)加盟 旅行業公正取引協議会会員

中日ツアーズは1962年に創立した中日企業株式会社が運営する旅行サービスで、2012年に中日旅行会から中日ツアーズに改称、国内旅行から海外旅行まで様々な旅行商品を地域の方へ提供しています。専門分野の講師同行ツアー、撮影ツアーなどテーマ性のある旅行が充実しています。中日写真協会の協力で著名な講師陣によるセミナーも開催しており、すべてのコースに添乗員が同行し旅程の管理、参加者の安全に配慮しています。

また、「飛鳥Ⅱ」、「ニッポン丸」、「ぱしふいっくびいなす」の邦船から「ダイヤモンド・プリンセス」など外国船のクルーズも幅広く取り扱っており、初めての方も安心して乗船していただけるよう説明会も開催しています。

中日新聞社主催の大相撲名古屋場所開催中には「ちゃんこ会食付き観戦ツアー」、地方新聞社系列の旅行会社でつくる「全国新聞旅行協議会」による宝塚貸切公演観劇ツアーなど中日新聞グループならではの旅行企画もたくさんあります。



バスツアーや旅行説明会でのPR

中日ツアーズでは、様々な場所やテーマのバスツアーを開催しています。バスツアー内での商品PRや商品サンプリングが可能です。楽しい旅行のひと時でのPRはポジティブな印象が残ります。また、海外旅行などの事前説明会でのPRもご相談可能です。クルーズ旅行説明会でのフォーマルウェアのPRなど実績があります。



中日文化センター人気講師と行く旅行

中日新聞グループのカルチャースクールの中日文化センター講座とのタイアップ旅行の企画ができます。人気講座の先生と学びながらの旅行できる機会は、ファンに根強い人気があります。美術展、寺院めぐり、海外グルメツアーなどジャンルは様々です。



※掲載情報は2018年10月時点のものです

NAGOYA
GRAMPUS

©1995 N.G.F.

- 運営／株式会社 名古屋グランパスエイト
- 所在地／〒470-0344 豊田市保見町
井ノ向 57-230 トヨタスポーツセンター内
- TEL／0565-79-8880
- 公式 HP／<http://nagoya-grampus.jp/>
- ホームスタジアム／
パロマ瑞穂スタジアム（20,000 人収容可）
豊田スタジアム（40,000 人収容可）



©N.G.F.

(<http://sp.chunichi.co.jp/gra/>)などでチームを盛り上げています。



©N.G.E.

「グランパスフェスタ」（中日スポーツ主催、愛知トヨタ協賛）では試合前のスタジアムで、小学校 6 年生までの親子 150 名が集合。現役選手やキッズアカデミーのコーチの指導に、子どもたちが嬉しそうにボールを蹴る様子が見られました。

※掲載情報は2018年10月現在のものです。